

国語 第6学年 詩を朗読してしょうかいしよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：詩の全体像と表現の効果を考え、聞き手へ届けたい印象に合う朗読を選ぶ。声の大きさを競うのではなく、読み方を選んだ本文の根拠を説明する。C(1)エの学習として、朗読の意図、工夫する箇所のメモ、聞き手の感想と見直した読み方。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、詩の全体像や表現の効果を考え、朗読で伝えたい印象を言葉を根拠に説明しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：朗読の意図、工夫する箇所のメモ、聞き手の感想と見直した読み方を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)エに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：大きな声ならよい朗読と考える、教師の読み方だけをまねる。これに対して、児童が選んだ詩の実際の本文で区切りや強弱の案を確かめる。同じ箇所を異なる読み方で試し、聞き手が受けた印象と読み手の意図を比べる。人前で読む負担が大きい場合は小集団や教師への朗読を用意する。〔知識及び技能〕(1)ケとC(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「どんな印象を届けたいですか。そのために、どこをどう読みますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：朗読の意図、工夫する箇所のメモ、聞き手の感想と見直した読み方は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：大きな声ならよい朗読と考える、教師の読み方だけをまねる。児童が選んだ詩の実際の本文で区切りや強弱の案を確かめる。同じ箇所を異なる読み方で試し、聞き手が受けた印象と読み手の意図を比べる。人前で読む負担が大きい場合は小集団や教師への朗読を用意する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「どんな印象を届けたいですか。そのために、どこをどう読みますか」への答えを学習前後で読み比べる。
変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

